

指標6 転倒転落発生率

代表者：鶴田 真 クオリティマネージャー：林 幸恵
QM委員会委員10名、診療所職員1名

転倒転落発生率

転倒転落

要介護、または寝たきりになる主な原因の3位が転倒・骨折です。高齢化に伴い、骨粗鬆症・認知症が増加したことが要因となっています。高齢者にとって入院による療養生活は、環境変化による様々なことが要因となり転倒転落のリスクが高まります。

患者影響度分類 事故レベル3b以上を防ぐ

事故レベル3b以上とは濃厚な処置や治療が必要になった有害インシデントのことです。ハイリスクな患者が多い病院では3b以上の転倒を防ぐことが重要とされています。

指標の意義

転倒・転落を予防し、外傷を軽減するための指標。特に、治療が必要な患者を把握していく。転倒・転落を予防し発生時の損傷を軽減する

Plan(計画)

- 転倒転落ラウンドを1回/週行い、患者の歩行を妨げない環境を整える
- 転倒を未然に防ぐため、離床センサーを有効利用する
- 転倒後の重症を防ぐために、ベッドの低床や衝撃吸収マットを利用する

Do(実行)

- 1回/週転倒転落ラウンドを行い、職場へフィードバックを行っている。
- 予防グッズを充実させ、定期的なメンテナンスを行っている。
- 予防対策の学習期を、全職員へ向けて開催している。

Action(改善)

【2024年度】

- 離床センサーを中央管理にしたことで使用毎の点検が可能になり安全性が向上した。
- 防ぎきれない転倒転落に対して、2025年度から業務に影響しない衝撃吸収マットを導入することが決まった。

Check(評価)

●【2023年】

転倒転落 154件
事故レベル3b以上 10件

●【2024年】

転倒転落 212件
事故レベル3b以上 9件

活動内容

調査

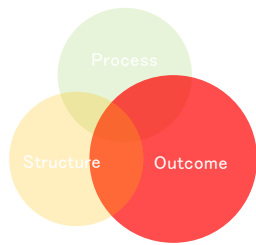
- 1回/月調査を継続する

広報

- 院内ニュースや病院ホームページに掲載し、結果を可視化する

効果判定

- 患者の予後に影響を与える骨折を予防する



指標6 転倒転落発生率

定義

- 分子 : A)報告のあった入院患者の転倒・転落件数
B)入院中の患者に発生したインシデント・アクシデントの影響度分類レベル3b以上の転倒・転落件数
- 分母 : A)入院患者延数 (24時在院患者+退院患者数の合計)

転倒転落発生数

2021～2024年度結果

表1 転倒転落インシデントの推移

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
転倒転落	224	186	154	212
事故レベル3b以上	13	15	10	9

●QM委員会より

病院での療養生活は自宅での生活に比べて転倒転落のリスクが高い環境と言えます。当院では倫理的観点から転倒転落予防と同時に身体拘束の最小化にも取り組んでいます。今後も転倒転落予防に、より一層取り組んで参りますが、ハイリスクであることにご理解をお願いいたします。

転倒転落発生率